

# 教養教育としての社会学 —Moodle を利用した授業実践と効果検証—

時岡 晴美 (教育学部教授)

西本 佳代 (大学教育基盤センター准教授)

## 1. はじめに

日本学術会議は、大学教育の分野別質保証の在り方について審議する依頼を受け、学問分野別の参照基準を作成した。社会学分野については、参照基準検討分科会の審議結果が、2014年に「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」としてまとめられている。そこでは、「教養教育としての社会学教育」は、「①一般的社会学知識を有する市民の育成」と「②他分野の学問を学ぶ人たちにとっての価値」に二分される。①に関しては、「社会的な知識を持つことは、自分自身の生きる社会の現実を把握すること」(21頁)であり、そのことによって、「社会的な広がりの中で物事を認識する力」(同上)や「異なる他者ととともに社会を作っていく力」(同上)を育むことができると説明される。また、②に関しては、「自身の専門分野の中から一步抜けだし、専門分野で当然視されていることを疑ってみる」(22頁)ために重要だとされる。

このように、教養教育において社会学が必要であることは論を俟たない。その一方、社会学に限らず、教養教育実施担当者の負担が増加していることも指摘されている(杉谷、2019ほか)。教養教育の必要性は理解されているものの、その科目を担当する教員が十分に配置されているとは限らない。厳しい運営体制の中、教養教育の質の維持・向上という課題が与えられた状況だといえる。

こうした状況の中、2019年12月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大によって、大学の授業は急速にオンライン化された。原稿執筆時点(2021年11月)で、多くは対面授業に戻っているが、香川大学では、対面授業であっても遠隔授業で得た知見を活用することが推奨されている<sup>1)</sup>。そのため、現在の教養教育担当者に求められていることは、授業のオンライン化に対応しながら、かつ厳しい運営体制の中で授業の質の維持・向上をはかるということだといえる。他方、学生の視点で見れば、授業のオンライン化は、課題の多さという新たな負担をもたらした(葛城、2021)。そのため、学生にとっての過重な負担とならずに、授業の質の維持・向上をはかることも教養教育担当者に求められている。

これらの新たなニーズに対して、本学のLMS(Learning Management System)である香川大学Moodle(以下、Moodleと表記)が寄与するのではないかと考えた。つまり、Moodleを効果的に利用することで、教員にも学生にも過重な負担を求めずに、社会学的素養が育成されるのではなかろうか。具体的には、上記の①に関してはグループワークや

話し合いに代わるものとして、②に関しては社会的アプローチを学習するものとして、Moodle を利用する方法が考えられる。本稿では、社会学を扱った教養教育の授業における、Moodle を利用した授業実践を報告し、その効果検証を行う。それらを通して、教養教育としての社会学の在り方を考察する。

## 2. 香川大学全学共通教育における社会学

香川大学の教養教育は「全学共通教育」と呼ばれる。この「全学共通教育」は、「主題科目」「学問基礎科目」「コミュニケーション科目」「高度教養教育科目」「広範教養教育科目」と呼ばれる科目群から成る<sup>2)</sup>。「主題科目」は、「21世紀を生きる学生が将来市民として直面する社会的課題を発見する力、そしてその課題を解決する力」を育成することを目指す科目である。「人生」や「生き方」といった広い意味での「キャリア」をテーマとする「主題 A」、現代社会が直面する諸問題をテーマとする「主題 B」、地域の現状や課題をテーマとする「主題 C」に分けられる。「学問基礎科目」は、体系的に確立された学問分野について学ぶ科目である。現在、社会学は、「主題科目」「学問基礎科目」のいずれかにおいて学ぶことができる<sup>3)</sup>。

社会学の授業を担当するのは、「科目領域会議」に所属する教員である。香川大学では、歴史学、社会学、数学等、体系的に確立された学問分野が 26 用意されており、講師以上の教員は、いずれかの「科目領域会議」に所属することが求められる。毎年、この「科目領域会議」に対して、「全学共通教育」への協力依頼があり、授業担当教員が選出される。2021 年度、社会学の「科目領域会議」に所属する教員は 6 名であり、そのうちの 2 名（第 1 筆者と第 2 筆者）によって本稿を執筆した。

## 3. Moodle を利用した授業実践

Moodle を利用した授業実践は、2020 年度「主題 A：人生選択の社会学」（第 1 筆者授業担当）、2020 年度「主題 A：キャンパスライフ入門」（第 2 筆者授業担当）、2021 年度「主題 A：キャンパスライフ入門」（第 2 筆者授業担当）、2021 年度「学問基礎科目：書物との出会い（ロ）」（第 1 筆者・第 2 筆者共に授業担当）の 4 つで行った<sup>4)</sup>。具体的な手順は、次の通りである。

- 1) 各回の授業後に、受講生は、授業の課題を Moodle を通して提出する。
- 2) 教員は、提出された課題を全て Word に貼りつけて一覧にする。
- 3) 教員は、一覧を PDF 化して Moodle に掲載する。
- 4) 受講生は、前回の授業の復習として一覧を確認する。



図 1 2021 年度「学問基礎科目：書物との出会い（口）」の Moodle 画面

実際に、2021 年度「学問基礎科目：書物との出会い（口）」を用いて説明しよう。図 1 は、当該授業で使用した Moodle の画面である。第 4 週の授業のセクションに、「課題の提出（第 4 週）」という課題の提出場所が設定されている。まず、受講生は、ここから、第 4 週の課題を提出する。次に、教員は、「課題の提出（第 4 週）」に提出された課題を一括ダウンロードして、Word に貼りつけて一覧を作成する。その一覧を PDF 化して、第 5 週の授業のセクションに、「第 4 週課題のまとめ」として掲載する。そして、第 5 週の授業時に、受講生は各自で「第 4 週課題のまとめ」に記載された内容を閲覧する。

この授業実践の目的は二点ある。一点目は、社会学的素養を育成することである。先述のとおり、「①一般的社会学知識を有する市民の育成」に関しては、グループワークや話し合いに代わるものとして、「②他分野の学問を学ぶ人たちにとっての価値」に関しては、社会学的アプローチを学習するものとして、採り入れた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来通りのグループワークや話し合いができない中、受講生たちは Moodle に掲載された課題の一覧を閲覧することで、自分と異なる他者の意見を知ることができる。さらに、そうした他者の知見に対して自分の意見を構成することで、考え方を整理することができるのではないか。また、講義→課題の提出→課題に対するフィードバック、を行うことで、社会学的アプローチの理解が進むと考えた。

二点目は、学生が Moodle に慣れ親しむことにある。全学共通科目を受講する多くの学生は一年生である。その一年生が入学したばかりの前期の期間中に、本学の LMS である香川大学 Moodle に慣れ親しんでもらおうと考えた。

これらの目的を達成するため、運用にあたっては、教員による口頭でのフィードバック、受講生が他の受講生の課題にコメントする機会の確保、の二点に努めた。教員による口頭でのフィードバックは、前週で提出された課題の一部を取りあげ、授業の冒頭で、教員が

補足説明することを指す。これは、昨年度の反省に基づき加えた変更点である。2020年度「学問基礎科目：書物との出会い（ロ）」は、オンデマンド授業として開講した。そのため、受講生が提出した課題に対する教員のフィードバックを文章で行ったのだが、それが担当教員の負担増につながった。そこで、今年度は、提出された課題の一部に対して、教員が講義中に口頭でフィードバックし、一覧をMoodleに掲載する方法に改めた。教員の過重な負担とならずに、授業の質の維持・向上をはかるための変更点でもある。

受講生が他の受講生の課題にコメントする機会は、まとめの回で担保した。「第8週 前半のふりかえり」と、「第14週 全体のふりかえり」では、「第●週課題のまとめ」で閲覧した他者の意見に対して、受講生がコメントできるようにした。純然たる講義資料とは異なり、一読して考察しそれらに対して意見を記述することを求めるもので、全部に対してのコメントだけでなく、受講生が特に気づいたり関心を持ったりした点について、掘り下げて記述することができるようにした。実際に書かれたコメントも、全体に対しての感想や、一部の意見に対して持論を展開したものもあった。なお、本節の説明では、2021年度「学問基礎科目：書物との出会い（ロ）」を具体例としてとりあげたが、他の授業においても同様の要素を取り入れている。

## 4. 効果の検証方法

### 4-1. Microsoft Forms を用いた調査

本調査は、Microsoft Forms を用いてオンラインで実施した。授業の最終回に、調査用のURLをMoodleに掲載して、各自で質問項目に回答してもらった。各授業の最終回の授業形態（いずれも遠隔授業として実施）と調査時期は以下のとおりである<sup>5)</sup>。

- ・ 2020年度「主題A：人生選択の社会学」（表中では「2020年度人生選択」と表記）  
オンデマンド型授業、調査日：2020年11月30日～12月1日
- ・ 2020年度「主題A：キャンパスライフ入門」（表中では「2020年度キャンパス」と表記）  
オンデマンド型授業、調査日：2020年11月26日～27日
- ・ 2021年度「主題A：キャンパスライフ入門」（表中では「2021年度キャンパス」と表記）  
リアルタイム型授業、調査日：2021年6月3日
- ・ 2021年度「学問基礎科目：書物との出会い（ロ）」（表中では「2021年度男と女」と表記）  
リアルタイム型授業、調査日：2021年7月27日～29日

なお、調査は成績評価とは無関係であること、調査結果は匿名で扱われること等を説明し、受講生は、調査目的に同意した場合のみ参加している。

### 4-2. 調査協力者の属性

調査を実施した4つの授業は、1年生を主な対象としているが、2年生以上も数名受講している。1年生と2年生以上とでは、社会学に接する機会や遠隔授業に対する耐性が異なると考えられる。そのため、授業開講年度の1年生に限定して分析を行った。

調査協力者の属性は、表 1 の通りである。性別については、男性 48.2%、女性 51.3%とほぼ同じ割合となっている。学部については、医学部が 25.5%、創造工学部が 21.5%と比較的多く、法学部は 11.5%、農学部は 10.5%にとどまっている。調査を実施した授業は、2021 年度「主題 A:キャンパスライフ入門」が 40.5%と最も多く、2020 年度「主題 A:キャンパスライフ入門」が 10.0%と最も少なくなっている。

表 1 調査協力者の属性

性別	男性	女性	その他	合計			
	48.2	51.3	0.5	100.0 (199)			
学部	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部	合計
	13.0	11.5	18.0	25.5	21.5	10.5	100.0 (200)
調査を実施した授業	2020 年度 人生選択	2020 年度 キャンパス	2021 年度 キャンパス	2021 年度 男と女	合計		
	18.0	10.0	40.5	31.5	100.0 (200)		

注：表中の値は%、()内は実数。以下、表 4 まで同様に表記。

## 5. 調査の結果

本調査では、Moodle を利用した授業方法の効果検証を行うため、Moodle の閲覧状況、Moodle を用いた授業方法に対する感想、社会学のジェネリックスキルの獲得状況、授業態度、の 4 点を聞いた。以下では、Moodle の閲覧状況、Moodle を用いた授業方法に対する感想、社会学のジェネリックスキルの獲得状況、について確認した後、社会学のジェネリックスキルの獲得状況とそれぞれの調査項目との関係を検討する。

### 5-1. Moodle の閲覧状況

まず、Moodle の閲覧状況を確認したい。表 2 は、調査協力者の Moodle の閲覧状況を示したものである。この結果からは、調査協力者の約 8 割は、Moodle に掲載された課題の一覧を閲覧していることがわかる。「すべてを閲覧した」26.0%、「だいたい閲覧した」49.5%となっており、合計すると 75.5%が該当している。

表 2 Moodle の閲覧状況

全く閲覧していない	あまり閲覧していない	だいたい閲覧した	すべて閲覧した	合計
1.0	23.5	49.5	26.0	100.0 (200)

### 5-2. 授業方法に対する感想

次に、Moodle を用いた授業方法に対する感想を確認したい。表 3 は、受講生が提出した課題を一覧にして Moodle に掲載する方法に対する感想を示したものである。この結果が



らは、他者の考えを知って自分の考えを深めることができた、多様な視点から考える訓練になったと回答する者が多いことがわかる。「a. 他の受講生の考えを知ることで、自分の考えを深めることができた。」「b. 一つの課題に対して、多様な視点から考える訓練になった。」は「非常にあてはまる」の該当者が6割を超えている。

逆に、この授業方法に対する否定的な意見は1割にとどまっている。「d. 他の受講生が提出したものを読むのは、あまり意味がないと思った。」は「非常にあてはまる」「少しあてはまる」を合計しても10.5%であり、大多数はこの授業方法に対して肯定的な位置づけを与えていることがわかる。

表3 授業方法に対する感想

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	少しあてはまる	非常にあてはまる	合計
a. 他の受講生の考えを知ることで、自分の考えを深めることができた。	1.0	3.5	35.5	60.0	100.0 (200)
b. 一つの課題に対して、多様な視点から考える訓練になった。	1.0	1.0	35.0	63.0	100.0 (200)
c. 授業内容について理解を深める助けになった。	1.5	6.0	41.5	51.0	100.0 (200)
d. 他の受講生が提出したものを読むのは、あまり意味がないと思った。	38.0	51.5	6.5	4.0	100.0 (200)
e. 自分が次に書く時や、他の課題作成の参考にした。	4.5	12.6	45.2	37.7	100.0 (200)
f. 自分が提出した課題が不適切でないとわかり、安心した。	4.0	23.5	50.0	22.5	100.0 (200)
g. 自分の都合にあわせてゆっくり読めてよかった。	3.0	10.0	50.0	37.0	100.0 (200)

### 5-3. ジェネリックスキルの獲得状況

さらに、ジェネリックスキルの獲得状況についても確認したい。前掲の「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」では、「4-2. 社会学の学びを通じて獲得すべき基本的な能力」の「ジェネリックスキル」として、「社会の成員としての自己を理解する能力」「他者に対して寛容な態度をもつ能力」「根拠を持った論理的な主張をして人を説得する能力」「グループで作業する能力とコミットメント」「情報リテラシーとプレゼンテーション能力」「自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力」の6点を挙げている。このうち、「グループで作業する能力とコミットメント」「情報リテラシーとプレゼンテーション能力」は、大人数を対象とした遠隔授業での育成が難しいと考え除外し、残りの4つの能力の獲得状況を受講生に聞いた。

表4は、授業を通して次の能力が身についたか尋ねた結果を示したものである。ここからは、「b. 他者に対して寛容な態度をもつ能力」と「d. 自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力」については、「非常に身についた」と回答する者が4割に達していることがわかる。Moodle上に掲載された、他の受講生の課題を確認し、自分と異なる意見の存在を理解すること。また、自分と異なる意見を鏡にしながら、自らの価値観を相対化して再

構築すること。これらの目標は、授業中にも繰り返し説明されており、受講生にも伝わりやすかったと推測できる。一方、「a. 社会の成員として自己を理解する力」「c. 根拠を持った論理的な主張をして人を説得する能力」については、「非常に身についた」と回答する者が3割にとどまっていた。これらは、短期間での育成が難しい能力であり、一つの授業のみで獲得できる能力ではないのかもしれない。

表4 ジェネリックスキルの獲得状況

	全く身につけていない	あまり身につけていない	少し身についた	非常に身についた	合計
a. 社会の成員として自己を理解する能力	0.5	7.5	58.5	33.5	100.0 (200)
b. 他者に対して寛容な態度をもつ能力	0.5	7.5	51.8	40.2	100.0 (199)
c. 根拠をもった論理的な主張をして人を説得する能力	0.0	10.6	60.1	29.3	100.0 (198)
d. 自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力	0.0	7.5	49.7	42.7	100.0 (199)

#### 5-4. ジェネリックスキルの獲得状況と諸属性との関係

では、ジェネリックスキルを獲得した学生はどのような学生だったのか。次にジェネリックスキルの獲得状況とそれぞれの調査項目との関係を確認したい。ここでは、諸属性として、性別、学部、調査を実施した授業の3つについて、それぞれ平均の差を検定した結果を示す。なお、ジェネリックスキルの獲得状況は、「全く身につけていない」=1、「あまり身につけていない」=2、「少し身についた」=3、「非常に身についた」=4、とし、表中の値は大きいほど能力を獲得したと考えていることを示している。

表5はジェネリックスキルの獲得状況と性別との関係、表6はジェネリックスキルの獲得状況と学部との関係、表7はジェネリックスキルの獲得状況と調査を実施した授業との関係、をそれぞれ示したものである。表5及び表6の「c. 根拠をもった論理的な主張をして人を説得する能力」以外の項目については有意な結果が得られなかった。ここから、性別、学部、調査を実施した授業をそれぞれ比較した場合、ジェネリックスキルの獲得状況については、一部の項目を除き、違いがあるとはいえないことがわかる。

表5 ジェネリックスキルの獲得状況と性別との関係 (T検定)

	男性	女性	合計
a. 社会の成員として自己を理解する能力	3.25 (0.58)	3.25 (0.64)	0.06
b. 他者に対して寛容な態度をもつ能力	3.31 (0.67)	3.33 (0.60)	-0.31
c. 根拠をもった論理的な主張をして人を説得する能力	3.34 (0.60)	3.04 (0.58)	3.58 <sup>***</sup>
d. 自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力	3.34 (0.59)	3.36 (0.64)	-0.29

注：\*\*\* は  $P < 0.001$ 、\*\* は  $P < 0.01$ 、\* は  $P < 0.05$ 。()内はSD。以下、表7まで同様に表記。

表6 ジェネリックスキルの獲得状況と学部との関係（一元配置分散分析）

	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部	F 値
a. 社会の成員として自己を理解する能力	3.15 (0.67)	3.35 (0.57)	3.33 (0.59)	3.25 (0.63)	3.21 (0.64)	3.19 (0.51)	0.46
b. 他者に対して寛容な態度をもつ能力	3.40 (0.71)	3.35 (0.65)	3.25 (0.69)	3.35 (0.63)	3.23 (0.61)	3.38 (0.50)	0.40
c. 根拠をもった論理的な主張をして人を説得する能力	3.16 (0.69)	3.35 (0.65)	3.17 (0.51)	3.14 (0.63)	3.29 (0.64)	3.00 (0.45)	1.04**
d. 自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力	3.32 (0.69)	3.52 (0.67)	3.39 (0.55)	3.29 (0.64)	3.35 (0.61)	3.29 (0.56)	0.52

表7 ジェネリックスキルの獲得状況と調査を実施した授業との関係（一元配置分散分析）

	2020年度 人生選択	2020年度 キャンパス	2021年度 キャンパス	2021年度 男と女	F 値
a. 社会の成員として自己を理解する能力	3.44 (0.61)	3.30 (0.57)	3.32 (0.52)	3.03 (0.67)	4.59
b. 他者に対して寛容な態度をもつ能力	3.40 (0.65)	3.30 (0.73)	3.35 (0.62)	3.24 (0.61)	0.59
c. 根拠をもった論理的な主張をして人を説得する能力	3.31 (0.58)	3.50 (0.69)	3.19 (0.53)	3.02 (0.64)	4.14
d. 自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力	3.46 (0.61)	3.45 (0.69)	3.40 (0.56)	3.21 (0.65)	1.83

### 5-5. ジェネリックスキルの獲得状況と授業態度との関係

最後に、ジェネリックスキルの獲得状況と授業態度との関係も確認したい。表8は、ジェネリックスキルの獲得状況、Moodleの閲覧状況、授業態度について、ピアソンの相関係数を算出したものである。なお、項目のⅠ～Ⅳはジェネリックスキルの獲得状況、ⅤはMoodleの閲覧状況、Ⅵ～Ⅸは授業態度を示している。

この結果からは、他の項目と比較した場合、ジェネリックスキルの獲得状況とMoodleの閲覧状況との間に強い正の相関があるわけではないことがうかがえる。「Ⅴ Moodleの閲覧状況」との相関係数は、それぞれ、「Ⅰ 社会の成員として自己を理解する力」.285、「Ⅱ 他者に対して寛容な態度をもつ能力」.214、「Ⅲ 根拠を持った論理的な主張をして人を説得する能力」.234、「Ⅳ 自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力」.208、となっている。

他の項目と比較した場合、ジェネリックスキルの獲得状況とMoodleの閲覧状況の間には強い正の相関はない。ここから、Moodleを閲覧する学生ほど、ジェネリックスキルを獲得する、という単純な話ではないことがうかがえる。この結果は、学生の過重な負担が心配されるオンライン授業の在り方を考えるにあたり、重要なポイントなのかもしれない。教員は、能力が身につくようにと学生に対して多くの課題を出す。しかし、その課題を全て真面目に取り組んだ学生の能力が高いというわけでは必ずしもない、ということである。もちろん、本調査で得られたデータは、あくまで学生の主観的な判断に基づく指標であり、能力が身についたと考えている学生に実際に能力が身についているかどうかはわからない。また、Moodle上の課題一覧を閲覧することとオンライン授業の課題を提出することを同一



に論じていけないだろう。けれども、今後のオンライン授業を考えるにあたって、重要なポイントを提示しているようにみえる。

ここであわせて考えるべきなのは、どのような学生がジェネリックスキルを獲得しているのか、という点である。検証するデータがないため、推測の域を出ないが、Moodle を閲覧する学生ほど、ジェネリックスキルを獲得するのでなければ、閲覧の際の読みの深さが影響している、と考えることはできないだろうか。多数の意見の中で何が大切なトピックなのか見極め、その点について深く考えることができる。そんな学生がジェネリックスキルを獲得しているという仮説である。

この仮説が正しければ、教員は、前週で提出された課題に対してフィードバックする際に、大切なトピックを強調し、補足説明するといった工夫をすることができる。広く浅く教えるのではなく、授業内容のピークをあえてつくり、そこに深く関わることを求める。これは、教員にも学生にも過重な負担を求めずに、社会的素養を育成する方法となりうる。しかし、残念ながら、今回の調査ではそれらの点について検証するデータがない。全国の調査で得た仮説に基づき、検証を続ける必要がある。

表 8 ジェネリックスキルの獲得状況と授業態度との関係（相関係数）

	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
I 社会の成員として自己を理解する能力	.539**	.483**	.474**	.285**	.222**	.306**	.329**	.360**
II 他者に対して寛容な態度をもつ能力		.401**	.335**	.214**	.189**	.223**	.204**	.280**
III 根拠をもった論理的な主張をして人を説得する能力			.487**	.234**	.308**	.386**	.431**	.231**
IV 自分が得た知識や価値観を反省し相対化する能力				.208**	.313**	.402**	.253**	.369**
V Moodle の閲覧状況					.210**	.207**	.157**	.197**
VI この授業に熱心に取り組みましたか。						.495**	.434**	.486**
VII あなたは、この授業の到達目標を達成できましたか。							.545**	.437**
VIII あなたは、この授業でよい成績を修められると思いますか。								.442**
IX あなたは、総合的に判断して、この授業に満足していますか。								

注：\*\* は  $P < 0.01$ 、\* は  $P < 0.05$ 。

## 6. おわりに

本稿では、社会学を扱った教養教育の授業における、Moodle を利用した授業実践を紹介し、その効果検証を行った。その結果は以下の3つである。

- Moodle を利用した授業実践の目的は、社会的素養を育成すること、学生が Moodle に慣れ親しむこと、の二点にあった。
- 調査協力者の約 8 割は、Moodle に掲載された課題の一覧を閲覧している。また、大多数はこの授業方法に対して肯定的な位置づけを与えている。
- ジェネリックスキルの獲得状況と Moodle の閲覧状況との間に強い正の相関があるわけ

ではない。

授業実践の目的に照らし合わせて、検証結果を整理しよう。一点目の目的である、社会的素養を育成することについては、ジェネリックスキルの獲得状況と Moodle の閲覧状況との間に強い正の相関はみられなかった。しかし、その結果こそが、今後のオンライン授業を考えるにあたって、重要な視点を提示してくれるとも考えられる。広く浅くではなく、授業内容のピークをあえてつくり、受講生にはそこに深く関わることを求める。そのような授業実践が、教員にとっても、学生にとっても過重な負担とならずに、授業の質の維持・向上をはかる方法になるのではと、仮説的ではあるが考えられる。

二点目の目的である、学生が Moodle に慣れ親しむことについては、一定の成果が得られたと考えられる。調査協力者の約 8 割は、Moodle に掲載された課題の一覧を閲覧しており、大多数はこの授業方法に対して肯定的な位置づけを与えている。

以上の整理をもとに、教養教育としての社会学の在り方を考察すると、教員にも学生にも過重な負担を求めずに、社会的素養を育成しなければならないという状況において、Moodle は大きな助けになると考えられる。厳しい運営体制の中で授業の質の維持・向上をはかるには、効率化は欠かせない。その一助として、遠隔授業で得た知見が活用できると考えられる。

一方、教養教育ほど、「効率化」という言葉が似合わない授業群もないのかもしれない。今でこそ、「わかる」教養や「役に立つ」教養がもてはやされるが、従来の教養主義には、人格主義や理想主義などの「自省」（「じやまをする教養」）や「超越」（理想主義的教養）が含まれていた（竹内、2019）。一見無駄とも思える知識を学び、ゆっくりと時間をかけて自らの考えを醸成する。そうした「ゆとり」や「遊び」にあたる部分もまた、教養教育において担保されなければならない。そのためには、「1. はじめに」において、本稿執筆の前提条件として指摘した、「厳しい運営体制」がそもそも解消されなければならないだろう。教養教育を担当する教員の数に十分に確保されること、一教員が負担する授業数が過剰にならないことなど、配慮すべき事項は多い。もちろん、学生側の時間的余裕も必要である。時代の変化と共に教養教育も移り変わる。何を変化させて何を守るのか、教養教育担当者は常にこの問いに取り組む必要があり、本稿はそのための試論でもある。

## 謝辞

本稿は、第一筆者の退職にあたり、第一筆者の本学教養教育に対する考えを、第二筆者がまとめたものです。この場を借りて、第一筆者の長年のご尽力に感謝申し上げます。

## 注

- 1) 香川大学では、「令和 3 年度の授業実施に係る基本方針について」（令和 3 年 3 月 4 日）において、「対面授業の実施にあたっては、LMS の授業利用等、これまで遠隔講義で得た知見を活用し、教育の質の向上を図るものとする。」とされている。

- 2) 香川大学全学共通教育は、2022 年度より新カリキュラムとなるため、本稿で紹介した科目名や構成は変更される予定である。詳細は、本誌特集を参照されたい。
- 3) 社会学の「科目領域会議」に所属していない教員（例えば、教育社会学を専門とする教員が教育学の「科目領域会議」に所属している場合がある）が、全学共通科目で社会学を扱った授業を開講している場合は把握できないため、本稿では言及していない。
- 4) 「学問基礎科目：書物との出会い」の詳細については、齊藤ほか（2018）を参照されたい。
- 5) 調査を実施した 4 つの授業の形態がオンデマンド型とリアルタイム型に分かれているため、受講生による Moodle の利用の仕方が全授業で同一だとみなすことはできないが、本調査の質問項目の回答に及ぼす影響は少ないと判断して分析を行った。

## 参考文献

- 葛城浩一（2021）「コロナ禍における学生の学習活動及び教員の教育活動の実態」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 18 号、77-90 頁。
- 日本学術会議社会学委員会社会学分野の参照基準検討分科会（2014）「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」（<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140930-5.pdf>） < 2021 年 10 月 3 日アクセス >
- 齊藤和也・中谷博幸・佐藤慶太・西本佳代（2018）「全学共通科目「書物との出会い」の本格実施をむかえて」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 15 号、131-145 頁。
- 杉谷祐美子（2019）「学部調査にみる日本の教養教育の動向」『IDE 現代の高等教育』No.610、35-40 頁。
- 竹内洋（2019）「教養の構造転換」『IDE 現代の高等教育』No.610、4-9 頁。